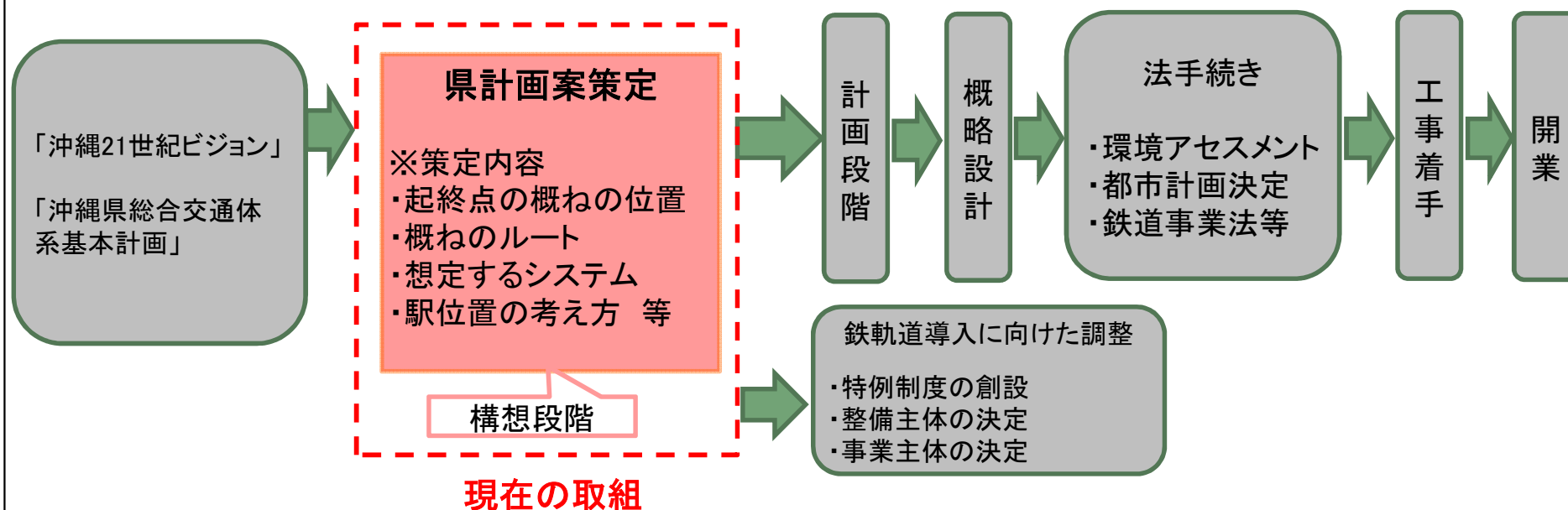


1 導入に向けた検討の流れ

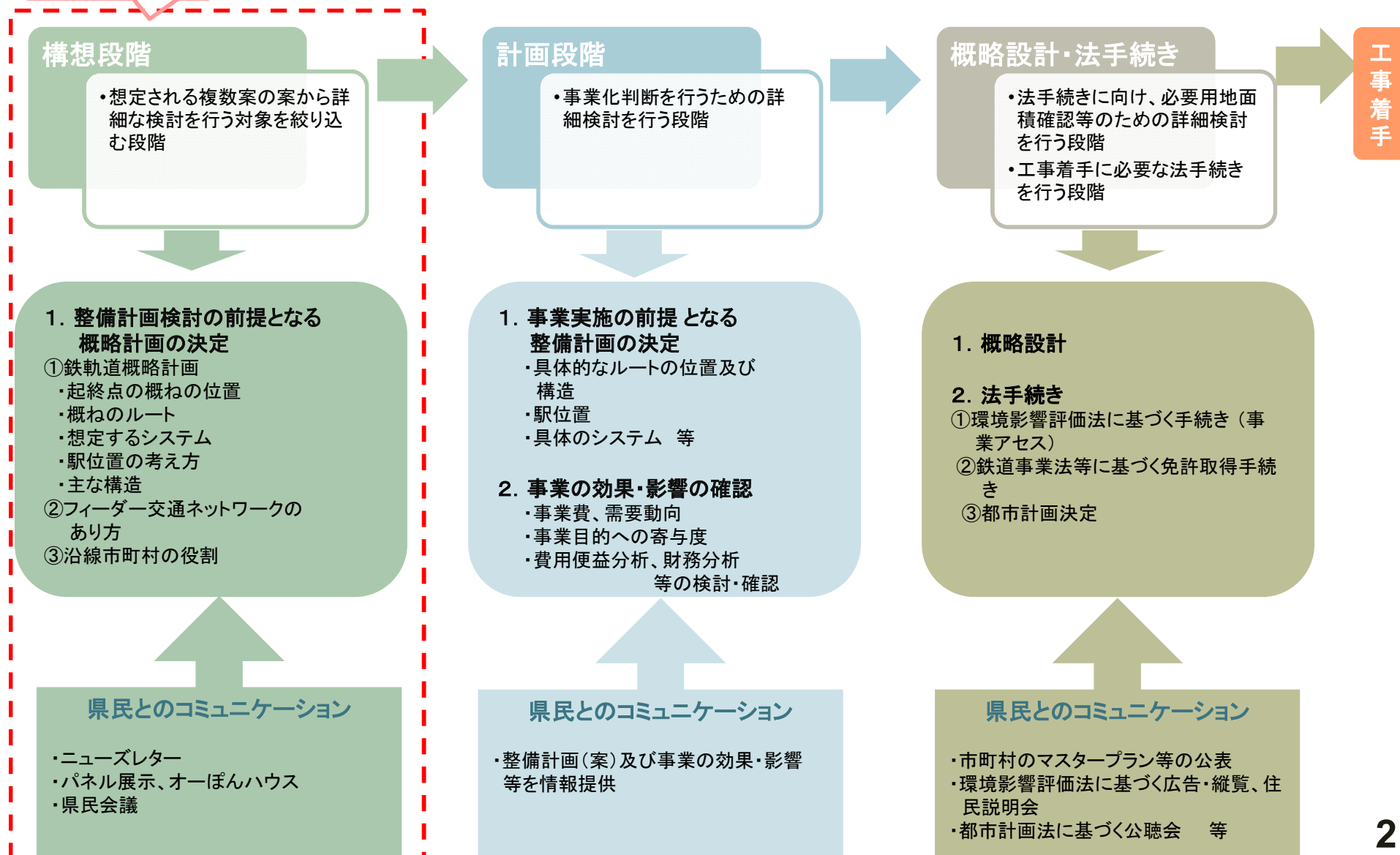
H26年10月より、県の計画案づくりをスタート

- ・ 県計画案策定は概略的な計画検討を行う段階（構想段階）
- ・ 計画案策定後は、具体的な駅位置等について検討を行う「計画段階」へ移行



2 各段階における検討・確認事項

現在



3 各段階における役割

【構想段階】

- ・ 課題解決及び将来像実現に向けよりよい計画を策定するためには、複数の案を設定し、幅広い視点で比較・検討を行うことが求められるが、全案を同時に詳細に検証することは、時間や費用等の面で非効率である。
- ・ こうした状況を避けるために、構想段階は、幅広く複数の案について概略的な検討を行い、詳細検討を行う計画段階の検討の対象(概ねのルート等の基本的方針)を絞り込むのが役割となっている。
- ・ 構想段階は、概ねのルート等概略計画を検討する段階であり、具体的な箇所等現場の状況等を詳細に把握し検討を行うことが困難であることから、複数案の評価にあたっては、絶対評価ではなく、同一条件を設定し、各案の比較優位性を中心に確認するものとする。
- ・ また、構想段階は、公益的な観点から計画の必要性や計画の基本的方針に関する議論を行う段階であることから、県民等とコミュニケーションを図りながらよりよい案を選定していくことが重要である。

【計画段階】

- ・ 計画段階では、構想段階で絞り込まれた案について、具体的なルートや駅位置、駅数、システムについて検討を行い整備計画を決定し、同計画に基づき、事業費や費用便益分析等について詳細に検討を行い、その結果を踏まえ都市計画や環境影響評価法等に基づく法手続きに進むことが適切かを評価することになる。

【計画段階後手続き等】

- ・ 計画段階後は、工事着手の前提となる環境への影響や都市計画との整合等を確認するための手続きや鉄道事業等の免許取得に向けた手続きを行っていくことになる。